

氏名	本 間 温
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1600 号
学位授与の日付	昭和60年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学位論文題目	急性脳腫脹の発生におよぼす神経性因子および代謝性因子の相互作用に関する実験的研究
論文審査委員	教授 大月三郎 教授 森 昭胤 教授 庄盛敏廉

### 学位論文内容の要旨

急性脳腫脹発生過程において、神経性因子および代謝性因子が脳血管緊張低下にどのように関与するかを実験的に検討した。即ち、動脈血低酸素血症、動脈血高炭酸ガス血症、脳圧迫、クモ膜下出血等により代謝性因子による脳血管緊張の低下がすでに生じた状態の上に脳血管緊張調節中枢と考えられる視床下部背内側核、中脳網様体を破壊することにより脳血管緊張を神経性因子で低下せしめると、脳血管緊張がいかに変化するかを脳血液量、頭蓋内圧を持続測定することにより観察した。その結果、脳幹破壊前の脳血管緊張低下が高度なほど破壊による付加的な脳血管拡張はむしろ減弱しかつ一過性であり急性脳腫脹は発生し難いことが明らかとなった。しかし、クモ膜下出血群のうちクモ膜下凝血が著明な3頭に脳幹破壊により急性脳腫脹が発生した。

以上の結果より髄液循環障害に基づく頭蓋内圧の上昇、広範囲脳幹の虚血の存在下では、上記脳血管緊張調節中枢の破壊が加わると高度の脳血管緊張低下が招来され、急性脳腫脹が惹起される可能性が示唆された。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は急性脳腫脹の発生過程における神経性因子と代謝性因子の相互作用を調べるために、あらかじめ代謝性の脳血管緊張低下状態を作成した上に、脳血管緊張調節中枢と考えられる脳部位を破壊し、その効果をみたものである。急性脳腫脹の成因について、新しい知見を加えたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。